

平成 28(2016)年 6 月 16 日

[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当:松本、長野  
TEL:075-771-6051(9:00~17:00) FAX:075-746-3366 E-mail:[press@rohmtheatrekkyoto.jp](mailto:press@rohmtheatrekkyoto.jp)

報道関係者各位

ロームシアター京都 オープニング事業

ロームシアター京都セレクション  
**寒川晶子ピアノコンサート**  
～ 未知ににじむド音の色音(いろおと) ～



©Takashi Arai

**開催日時:2016年9月24日(土) 18:00**

**会場:ロームシアター京都 サウスホール**

## ＜開催概要＞

【日時】 2016年9月24日（土） 18:00開演（17:30開場）

【会場】 ロームシアター京都 サウスホール

【料金】 S席3,000円（1階）、A席2,000円（2階、バルコニー席）＜発売中＞

★終演後、寒川晶子、檜垣智也、伊藤悟、小沼純一（音楽・文芸批評）による、  
ポストパフォーマンス・トークを開催します。

【主催】 京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

【助成】 平成28年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

【協力】 紫紘株式会社

## ＜ロームシアター京都セレクションとは？＞

2016年1月にオープンした「ロームシアター京都」の主催事業として開催するオリジナルの音楽企画です。京都にゆかりのあるアーティストや、同時代性を意識しながらも実験精神を持って活動するアーティストを紹介しながら、これからの音楽と演奏スタイルの可能性を問うていきます。今回の公演では、京都の地で生まれ育ち、その音楽家としての感性の源流を京都に持つ気鋭の若手ピアニスト寒川晶子の魅力を、新たな文化芸術の拠点としてスタートするロームシアター京都から発信します。

## ＜公演の見どころ＞

### 京都出身、注目の若手ピアニスト寒川晶子が登場

京都で生まれ育ち、クラシック音楽を基礎として学んだ上で、実験的な要素の強い、そして歴史的にも重要な表現をポイントにした演奏活動などに多数参加。現代美術展やプラネタリウム、寺院など、さまざまな空間での演奏にも多く取り組んでいます。また、今回の公演でも披露するド音ピアノでは、フアッションショーでの生演奏や、小学校でのワークショップなど、斬新かつ幅広い活動によって、注目と高い評価を得ています。

### 演奏機会の希少な「ド（C）」音ピアノ

今回の企画は、全ての鍵盤をド（C）の音に調律したピアノによる、実験的な演奏表現によって、聴衆がもつ音楽の既成概念をピアノの音色で解放するという試みです。現代音楽の魅力を伝え、より理解を深めてもらうため、形式にとらわれない音楽のかたちを提示することで、柔軟な思考で音楽というものに触れていただきたいと考えています。

### アコースモニウム、音の織機との世界初のコラボレーション

特別ゲストとして2人の演奏者を迎えます。1人は、「アコースモニウム」の国内における第一人者である檜垣智也氏。そして、人類学者であり、民族楽器の演奏家でもある、伊藤悟氏です。アコースモニウムとの演奏では、ド音ピアノの音色をより立体的に響かせます。また、「音の織機」は、今回の公演のために、現地中国から持ち帰った木材で作成するもので、コンサートで使用されるのは、世界初の試みとなります。これらのコラボレーションによって、どのような音色が生まれるのか、どうぞ注目ください。

## <演奏楽器について>

### 「ド音ピアノ」とは



88 鍵ある鍵盤の音全てをドの音に特殊調律し直したピアノ。

ドとド#の間という非常に狭い音程の中を十二分割した微分音程で、各音域とすべての弦を調律する。普段の生活の中で無意識に耳にしている微妙な音程をピアノで表現することによって、静かににじんていくような音のひろがりを感じることができる。

### 「アークスモニウム」とは



スピーカーのために作られた電子音響音楽をコンサートで発表するための多次元立体音響装置。

会場内に配置された複数のスピーカーを、ミキサーでリアルタイムに操作（演奏）する事によって、さまざまな音響空間が自由に表現できることから、「スピーカーのオーケストラ」とも称される。

### 「音の織機」とは



布を織りながら音の紋様を奏でる機<sup>はた</sup>。

そんな世界でも珍しい織機が中国雲南省のタイ族に伝わっていた。

かつて、結婚前の女は人となりや想いを人に伝えるため、故意に機の平衡を崩し、身体動作や足さばきを工夫して音をつくっていた。老人たちと協働で再生し創造したこの織機は、記憶や感性のアッサンブラージュ（組み合わせる／集めるの意）を奏でる。

※写真はイメージです

## <出演者プロフィール>

### 寒川 晶子（さむかわ あきこ）



1982年京都市生まれ。18歳まで京都市にて過ごす。フェリス女学院大学音楽学部卒業。これまでにピアノを黒川浩氏、中川賢一氏らに師事する。音楽による空間づくりに積極的に取り組み、現代美術作品とのコラボレーションやプラネタリウムを舞台にした演奏会など、自らも創作に関わりながら演奏を行う。2010年に全鍵盤を「C」(ド)音に特殊調律したピアノを使用し各界から注目を集め、ファッションショーでの生演奏や小学校での芸術教育授業に招聘されるなど、その斬新な試みに高い評価を得た。また、2013年9月に禅と茶文化で著名な京都・大徳寺塔頭王林院にて、トイピアノによる演奏会を行うなど、日本文化を意識するようになる。2015年より現代音楽を下地にピアノと織物を繋ぐ演奏会を伊藤悟、野中淳史と展開。博多織に関わ

る作曲家の藤枝守氏ともピアノと織物の長期プロジェクトを計画している。女子美術大学アートプロデュース表現領域非常勤講師。

### 檜垣 智也（ひがき ともなり）



1974年生まれ。愛知県立芸術大学大学院修了。九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻博士課程後期単位修得退学。博士（芸術工学）。フランス留学中に電子音楽の作曲とアコースモニウムの演奏で注目を浴びる。フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ、カールスルーエ・アート・アンド・メディア・テクノロジー・センター、ハーバード大学、ケルン大学など主に欧米の音楽祭、大学、研究所からの招待公演が多い。作品はフランスやドイツの国営ラジオから頻りに放送されている。代表作の「囚われた女」は第18回文化庁メディア芸術祭アート部門の審査委員会推薦作品へ選出。アコースモニウムを日本へ本格的に導入し、教育、研究にも力を注ぐ。九州大学大学院、愛知県立芸術大学大学院、大阪芸術大学、相愛大学、同志社女子大学、京都造形芸術大学、名古屋芸術大学、フュチュラ（フランス国際電子音楽祭）などで後進の指導にもあたっている。

### 伊藤 悟（いとう さとる）



中国雲南省の少数民族やタイ王国北部に伝わる民族芸術について研究する人類学者であり、タイ族の老人たちより学んだ「ひょうたん笛」など民族楽器の演奏家。雲南大学在籍時、ひょうたん笛演奏家の眼徳全氏との出会いを機に、その演奏・制作技術を習得。雲南少数民族音楽について、雲南芸術学院の張興榮教授に師事し、フィールドレコーディングなどに従事した。ひょうたん笛に関する論文や演奏は中国でも高い評価を受けている。近年はタイ族の晩相牙女史と共に民族芸術の復興と伝承に取り組む。また、文化や生活を記録する民族誌映画を国際映画祭にて発表している。『こころを架けることば』（2011年）

がモスクワ国際民族誌映画祭にて最優秀賞を受賞。2015年より日本学術振興会特別研究員。